

## 第23回 「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」結果概要

- 日 時 令和元年8月26日（月）午後1時～午後2時10分
- 場 所 栃木県総合文化センター 3階 特別会議室
- 内 容
- 1 開 会
  - 2 あいさつ（森本委員長）
  - 3 設置要綱の一部改正について
  - 4 報 告
    - (1) 「交通結節点等基盤整備部会」の設置について
    - (2) LRT停留場の名称選定について
  - 5 議 題
    - ・ LRT運賃收受方法について
  - 6 そ の 他
  - 7 閉 会

### 【主な発言の要旨】

#### 3 設置要綱の一部改正について・・・資料1

##### 【事務局】

- ・ 資料1 説明

##### 【各委員，了承】

#### 4 報告

##### (1) 「交通結節点等基盤整備部会」の設置について・・・資料2

##### 【事務局】

- ・ 資料2 説明

##### 【委員長】

- ・ 皆様から意見等あればお願いします。

##### 【望月委員】

- ・ 要望を3点述べさせていただく。
- ・ 1点目は、「交通結節点等基盤整備部会」の検討内容である。駅東側と駅西側について検討しており、駅東側については、これから事業化をしていく中で、優先的に検討されると思うが、駅西側についても、スケジュール感を持って、検討していただきたい。

- ・ 2点目は、特に駅西側については、大通りの道路空間再編だけでなく、駅西側の交通結節点の考え方も整理をするということなので、その周辺のまちづくりと一体で検討しないと進まないと思う。特に駅西側については、LRTを延伸した後のまちづくりが重要であり、それぞれの結節点でどういうまちを作っていくのかということが固まらなると議論が進まないと思うので、あわせて「LRTまちづくり部会」を早急に立ち上げ、議論を進めていただきたい。
- ・ 3点目は、駅東側は特にトランジットセンターを中心に議論していくと思う。ぜひ、全体像をどう描くかということと、当面何を作るのかということをしっかり分けていただいて、過大投資にならないよう、徐々に周辺のまちの形成とあわせて、発展していくようなトランジットセンターを整備していくことが大事である。1番始めに立派なトランジットセンターを整備して、ほとんど利用されていないということにならないよう、注意しながら具体的な検討を進めていただきたい。

#### 【事務局】

- ・ まず、「交通結節点等基盤整備部会」は7月から開催しており、駅東側の整備スケジュールに合わせて具体的に検討を進めている。また、駅西側も並行して議論を進めているところであり、スケジュール感を持って、検討を進めて行きたいと考えている。
- ・ 次に、魅力ある宇都宮のまちづくりを進めるにあたり、LRTの効果を最大限活かしたまちづくりが大変重要だと考えている。現在、「LRTまちづくり部会」を来月の設置に向けて準備を進めているところである。今後、「LRTまちづくり部会」において、検討内容が取りまとめ次第、芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会にご報告できるよう取り組んでいく。

#### 【委員長】

- ・ それぞれの部会において、検討が進み次第、事務局から報告していただくことでよろしいか。

#### 【各委員，了承】

#### (2) LRT停留場の名称選定について・・・資料3

#### 【事務局】

- ・ 資料3 説明

#### 【委員長】

- ・ 皆様から意見等あればお願いします。

### 【望月委員】

- ・ 停留場の名称選定の実施にあたり、外部の有識者委員などによる検討の場を設けることは、公平性や中立性を確保していくうえで、非常に重要だと思うので、「(仮称)芳賀・宇都宮LRT停留場名称検討委員会」において、ぜひ検討を進めていただきたい。
- ・ **資料3**の2ページに、【停留場名称等のイメージ】があり、ネーミングライツの記載がある。富山ライトレールの場合もネーミングライツを導入し、個別の企業の名前をつけた停留場がある。また、副駅名でスーパーマーケットの名前がついている停留場もある。
- ・ どの停留場にどのような名称をつけるかという話と、どの停留場をネーミングライツとするのかという話は検討内容が違う。もし、芳賀・宇都宮でネーミングライツを実施するのであれば、どこの停留場でネーミングライツを実施するのか、その進め方をどのように行うのかを並行して検討していただくことが、停留場名を決める際には重要であると考えている。

### 【委員長】

- ・ ネーミングライツで民間企業がお金を出してでも企業の名前をつけたいというのと、その地域に根差す文化的・歴史的な名前をつけたいという両方の意見が出た際に、最初にルールを決めておかないと、停留場の名称を決めるにあたり難しいと思う。
- ・ 望月委員の意見も踏まえて、事務局としてはどのように考えているのか。また、方向性についてどのように考えているのか。

### 【事務局】

- ・ ネーミングライツについて、進め方としては停留場の名称について議論する最初の段階で、どの停留場をネーミングライツとするのか、また、副駅名にするのか、というところを考えていかなければならないと思っている。
- ・ 停留場の名称選定については、委員の意見も十分に参考にしながら、その進め方について、しっかり検討していきたいと考えている。

### 【中尾委員】

- ・ 停留場の名称については、既存のバスの停留場名があるので、LRTとバスとの停留場名が重複することも考えられる。バスの停留場の地名をつけるのか、企業名をつけるのか、トータルで行くのか、今後の「(仮称)芳賀・宇都宮LRT停留場名称検討委員会」の中で、議論していただき、利用者に分かりやすい名称にまとめていただければと思う。

### 【委員長】

- ・ 公共交通ネットワークの再編が一方で動いているので、バス再編の話と、混乱しないよう調整が重要である。

### 【事務局】

- ・ 停留場の名称について、わかりやすく示す明示性を確保しつつ、決めていきたいと考えているが、既存のバスの停留場名との関係性があるので、「(仮称)芳賀・宇都宮LRT停留場名称検討委員会」を設置する中で、地元の交通事業者などにも参画していただき、停留場の名称を検討していきたいと考えている。

### 【委員長】

- ・ 海外の方からすると、日本語表記の名称は大変分かりにくい。海外の人にとっても分かりやすい停留場の名称であることが重要であると考えます。
- ・ 停留場の名称などを番号や記号、数字表記などもあわせてやるのが重要であるが、「(仮称)芳賀・宇都宮LRT停留場名称検討委員会」の検討事項とは切り離して考えてよろしいか。

### 【事務局】

- ・ 今回の「(仮称)芳賀・宇都宮LRT停留場名称検討委員会」の中では、あくまで停留場の名称選定ということであるが、海外からの来訪者に対する明示性については、例えば、サイン計画等を活用しながら、わかりやすい視点で検討していきたい。

### 【委員長】

- ・ 停留場の名称については、「(仮称)芳賀・宇都宮LRT停留場名称検討委員会」を設置し、名称の必要な長さや略称なども含めて、地域住民が親しみやすい名称を検討していただくことでよろしいか。

### 【各委員，了承】

#### (2) LRT運賃收受方法について・・・資料4

### 【事務局】

- ・ 資料4 説明

### 【委員長】

- ・ LRT車両部会の部会長である望月委員より補足をいただきたい。

### 【望月委員】

- ・ L R T車両部会では、委員の皆様のご協力をいただきながら、車両設計認可の申請など、事業の進捗状況にあわせて、L R Tの運賃収受方法の検討を進めてきたところである。
- ・ 運賃収受方法の検討に当たっては、芳賀・宇都宮L R Tの特徴である、全線新設であることや全車両が同一であることなどを踏まえ、従来の運賃収受方法に捉われることなく、「I Cカードを利用した信用乗車という新しい方式を採用する」という事を前提に、これをいかに普及、成功させるかということを中心に考え、検討を進めてきたところであり、事務局から説明いただいたような運賃収受方法をL R T車両部会としてとりまとめてきたところである。
- ・ 特に、I Cカードリーダーの配置については、運賃収受のメインシステムであり、利用者がスムーズに乗降できるように、全ての扉の両側にリーダーを設置する独自性の高い方式を採用した。その配置に当たっては、タッチのしやすさはもちろんであり、信用乗車を成功させるために、できるだけタッチミスが発生しないように工夫するなど、利用者の視点に立って検討を進めてきた。
- ・ 今後は、乗降ルールや不正乗車対策などの運用方法について、引き続き、軌道運送事業者である宇都宮ライトレール株式会社と十分に協議を行うとともに、また、障がい者団体などとの意見交換も行いながら、この新しい運賃収受システムの実現に向けて万全の準備を進めていただきたい。

### 【委員長】

- ・ その他、皆様から意見等あればお願いする。

### 【中尾委員】

- ・ 事業者の立場として、一言申し上げる。芳賀・宇都宮L R Tは全線新設であり、全て同じ車両という事で、信用乗車を行う千載一遇のチャンスだったことから、I Cカード1本にして、全扉から乗降できるようにし、早く乗降を済ませ、速達性をあげたいという気持ちでいた。
- ・ しかしながら、I Cカードを持たない人は少なからずいるため、その様な人に対応することが必要となる。
- ・ I Cカードを持たない人の収受方法の比較検討結果をまとめたのが、**別紙3**の比較表であるが、現金利用者は運転士がいる前方で支払いをすることから、現金利用者が乗降できるのは、運転手がいる前方の扉に限定せざるを得ない。
- ・ 停留場は交差点の流出側に位置しており、現金利用者は、車両の1番先頭まで30mは歩かなければならない。そのようなことから、横断歩道をぎりぎりまで渡ってきた人は、一番手前の扉に飛び乗る可能性が高く、一番後方の扉から乗車した場合には、現

金支払いのために移動しなければならないなどの課題もある。

- ・ 今後、現金利用者についても1番後方から乗車した場合に、運転士がいなくても自分で現金が支払えるような対応策を検討していきたいと思っている。
- ・ 将来的には現金利用者をゼロにするような交通マネジメントをLRT車両部会の中で、検討していきたいと考えている。その理由としては、現金利用者のために設置する車内運賃箱や整理券発行機などの設備は故障、ロール紙の補充、人件費などの維持管理費用がかかるためである。
- ・ そのための交通マネジメントとして、例えば、入学時や定年退職時、免許返納時などにICカードを進呈することにより、公共交通の利用を促すこととなり、ICカード保有率がどんどん高くなると思う。
- ・ 将来的には、現金利用者をゼロにしていきたい。芳賀・宇都宮LRTは新しい取り組みであることから、そのような一つの方向性や方針を持って検討していきたい。

#### 【事務局】

- ・ LRT運賃収受方法については、基本的にはICカードをメインシステムとして運用できれば理想的であると考えている。現時点では、現金利用者がいることから、ICカード以外の利用者に対する補完システムの仕組みが必要であるとしたところである。
- ・ 将来的には、ICカードの普及が大切だと思っているので、ICカードの普及促進策として、ICカードの方が利便性が高いことなどをPRし、**別紙2**に記載のある「乗継割引」や「公共交通利用時のポイントサービス」などにより利便性を高めることで、ICカードを利用していただけるよう取り組んでいきたい。
- ・ 引き続き、ICカードの普及促進に向けては、様々な検討を行っていく。

#### 【委員長】

- ・ ICカードについては、地域連携ICカードが2021年春に利用ができるようになる。宇都宮市域では、LRT開業の1年前に、ICカードが利用できるようになることから、この1年間を上手に使って、LRTが開業する前に、ICカードの普及率を上げていただきたい。
- ・ 様々なアイデアやキャンペーンなど組み合わせて普及促進策に取り組んでいただきたい。

#### 【大森委員】

- ・ ICカードの利用については、乗降時間の短縮と定時性の確保のためにICカードの普及は必須であると考えている。
- ・ 不正行為をした場合の罰則については、どのように考えているのか。

### 【事務局】

- ・ 不正乗車時の罰則であるが、現時点では、軌道運輸規程第8条にあるとおり、正規の運賃のほか、2倍の割増運賃を徴収することとなっており、合計3倍の運賃が科せられる規定になっている。

### 【委員長】

- ・ 日本で信用乗車を行うときの壁が、不正乗車時の罰則が3倍の運賃しかとれないことである。海外では高額の割増運賃が科せられるので、信用乗車そのものが可能になっている。
- ・ 今後は、芳賀・宇都宮独自のルールを考えていくこともいいのかもしれない。この先、3倍の罰則がずっと適用されるとは限らないので、今後の展開に期待したい。

### 【望月委員】

- ・ 富山ライトレールについても信用乗車を実施しており、信用乗車を始めるときにできるかできないかの議論はあったが、富山市の市民性が真面目な気質のところだったので、信用乗車ができるのではないかとということでスタートしている。
- ・ 今回の芳賀・宇都宮LRTでの信用乗車だが、市民性・町民性を見て、真面目な気質の方が多いので、信用乗車にご協力いただけるだろうというところがベースになっていると思う。
- ・ ICカードが普及するためには、ICカードを利用することのインセンティブを明確に出していくことが必要である。事務局からの説明で「公共交通利用時のポイントサービス」などがあったが、富山ライトレールでは、ICカードを利用する場合と現金を利用する場合では、ICカード利用者の方が運賃が安くなるなど運賃に差がある。
- ・ 芳賀・宇都宮LRTでICカードをさらに普及させるためには、中尾委員からICカードを進呈する話もあったが、ICカードを利用することのインセンティブをしっかりとPRしていき、多くの方にICカードを利用していただくことが大切である。
- ・ そのためには、運賃設定をどうするか議論すると思うが、その際に、ICカードを利用することのインセンティブをきちんと考えた運賃設定をどうするか、そういうことをしっかりと議論していただきたい。
- ・ 現金を利用する際には、10円玉や50円玉を用意するなど両替の手間がかかることから、運賃設定もなるべくきりのよいところで、現金を使用しても、両替をできるだけしなくても済むような運賃設定を考えていただきたい。

### 【委員長】

- ・ 運賃体系からして、ICカードの利用が便利だというような形にしていきたい。
- ・ ぜひ、芳賀・宇都宮の信用乗車を成功させていきたい。

- ・ 事務局からの提案について、このような方針で進めることでよろしいか。

**【各委員，了承】**

## **6 その他**

**【事務局】**

- ・ 次回の検討委員会については，後日，改めて案内させていただく。

**【事務局】**

- ・ 以上で，本日の会議を終了する。

以上